



# 延岡中学校 学校だより 最終号

## 令和3年度修了の日を迎えて

本日で令和3年度を無事に修了することができました。今年度も新型コロナウイルス感染症の影響はありましたが、生徒の皆さんや先生方、保護者・地域社会の皆様の御理解と御協力のお陰で、大過なく修了することができました。改めて感謝を申し上げます。明日から短い期間ですが、春休みとなります。生徒の皆さんには、次年度によいスタートができるよう様々な準備をする期間としてこの時期を過ごしてください。

ところで、さだまささんの歌を題材にして数年前に上映された「風に立つライオン」という映画を、最近（再び）観る機会がありました。「大沢たかお」と言う俳優が主演のヒューマン映画です。もしかしたら、見た人もいるかもしれません。内容はある日本人医師がアフリカへ赴任し、多くの患者さんの治療にあたり、人としての生き方について考えるというものでした。

実はこの医師は、元宮崎大学医学部の外科医、柴田絢一郎氏がモデルになっています。柴田医師は昭和46年から約2年間、その時所属していた長崎大学からケニアに派遣され、多くの患者さんの治療をされたのだそうです。その時の経験談をさだまささんが聞いて、歌を作詞作曲されました。

実際のケニアでの活動と映画や歌の内容は若干異なっていたようですが、柴田医師は、人を助け世の中に貢献したいという高い志（夢・目標）を持って、病院施設や医療器具も十分ではなく、言葉も分からない国へ、しかも治安もよくないところへ行き医療活動に従事されました。

海外で活動することや医療に従事することだけが、「世の中に貢献する」、あるいは「高い志を持っている」という事ではないと思いますが、柴田医師の行動にさだまささんは心を打たれ、歌を作ったのだと思います。

現在、皆さんは総合的な学習の時間のキャリア教育やふるさと学習等を通して、職業や働くことの意義等について学んでいます。3年生の後半になると、その事を踏まえて、進路選択をしていきます。そして、最終的には社会の一員として、世の中を支える側（形成者）として活躍することになります。

皆さんが将来の職業について考える時に大切にして欲しい事があります。それは、職業を賃金や労働条件等だけで捉えるのではなく、自分の適性や希望を大事にすること、そして、その職業を通して社会にどう貢献していくのか（これは言い方を変えると、やりがい、生きがいとも言えます）を考えることです。

自分が就きたい職業には、簡単に出会えるものではないかも知れません。だからこそ、これからたくさん学んで知って、いろいろな経験を通して考えていくことが大切です。社会はめまぐるしく変化しています。皆さんが本当に取り組んでみたいと思える職業に出会えることを心から祈っています。そして、やりたいと思える仕事に出会えた時は、柔軟にかつ粘り強く、いざという時は「風に立つライオン」のように毅然と努力を続けてください。

最後に、郷土宮崎出身で児童福祉の父と言われた「石井十次」の言葉を贈り、令和3年度の学校だよりを終了したいと思います。

『為せよ、屈するなかれ。時重なればその事必ずならん』

